

シグナル

田浦健次郎

シグナルとは

- ▶ イベント通知のための API
- ▶ イベント通知 → シグナルの発生 (配達)
 - ▶ CPU に対する割り込みの「ソフトウェア (プロセス) 版」
- ▶ どんなイベントに対してシグナルが発生する?
 - ▶ エラー, 例外的事象
 - ▶ Segmentation Fault も実はその一つ
 - ▶ 時刻の経過など
 - ▶ 明示的な送信 (kill システムコール, kill コマンド)
 - ▶ etc.

シグナルを受け取る方法

- ▶ 発生したシグナルを受け取るいくつかの方法
 1. 登録しておいた関数 (シグナルハンドラ) が呼ばれる (sigaction)
 2. ファイルディスクリプタにデータが到着する (signalfd)
 3. シグナルの到着を待つ関数 (sigwaitinfo) に返り値が返される
- ▶ デフォルトの動作 (何も登録されていない場合) はシグナルにより異なり,
 - ▶ プロセスが強制終了される
 - ▶ 無視される
- ▶ ブロックする関数 (read など) はシグナルを受け取るとリターンするものが多い (ブロックしていてもシグナルに気付けるように)

シグナルの例

青字が特によく使う・見かけるもの

- ▶ **SIGINT** : interrupt (典型的には端末で Ctrl-C を叩くと発生)
- ▶ **SIGILL** : 不正命令の実行
- ▶ **SIGSEGV** : 不正なメモリのアクセス (Segmentation Fault)
- ▶ **SIGTERM** : プロセスの強制終了のためのシグナル (処理可能)
 - ▶ kill コマンドがデフォルトで送信するシグナル
- ▶ **SIGKILL** : プロセスの強制終了のためのシグナル (処理不可能)
 - ▶ kill -9/-KILL が送信するシグナル
- ▶ **SIGALRM** : 時間経過によって発生 (alarm, setitimer システムコール)
- ▶ **SIGXCPU** : CPU 使用量超過 (処理不可能)
- ▶ **SIGUSER1, 2** : 明示的送信のための (自由に利用可能な) シグナル

シグナルの処理方法 (sigaction)

- ▶ `int sigaction(sig, act, oldact);`
 - ▶ `struct sigaction * act;`
 - ▶ シグナル *sig* を受信した時の動作を *act* で指定
- ▶ `struct sigaction` の中身

```
1 struct sigaction {  
2     ...  
3     /* 呼ばれる関数を指定するフィールド */  
4     void (*sa_sigaction)(int, siginfo_t *, void *);  
5     sigset_t sa_mask;  
6     int sa_flags;  
7     ...  
8 };
```

sigaction 利用のテンプレート

```
1  /* シグナルハンドラ
2     sig を受け取ったときに行う動作 */
3  void sigint_action(int sig, siginfo_t * info, void * arg) {
4     ...
5  }
6
7
8  int main() {
9     ...
10
11     /* sig を受け取ったら sigint_action を呼ぶように設定 */
12     struct sigaction act;
13     act.sa_sigaction = sigint_action;
14     sigemptyset(&act.sa_mask);
15     act.sa_flags = SA_SIGINFO;
16     if (sigaction(sig, &act, 0) == -1) err(1, "sigaction");
17
18     ...
19 }
```

sigaction が設定されたシグナルが配達されたときの動作

- ▶ あるスレッド (*) で, (ちょうど割り込みが起きたのと同じように) 指定されたハンドラが実行される
- ▶ ハンドラが終了すると, 続きが実行される
- ▶ (*) あるスレッドはシグナルの種類により,
 - ▶ そのプロセス中の (OS が適当に選んだ)1 つのスレッド
 - ▶ シグナルの原因となる命令を実行したスレッド (SIGSEGV, SIGILL など)

Segmentation Fault もシグナルの一つ

- ▶ Segmentation Fault = 不正なメモリアクセス時に発生
 - ▶ 割り当てられていないアドレスをアクセスした
 - ▶ 割り当てられてはいるが、保護属性 (読み・書き・実行) で許可されていないアクセスが行われた
- ▶ 関連システムコール
 - ▶ `mprotect(addr, len, prot);`
 - ▶ `mmap(addr, len, prot, flags, fd, offs);`
 - ▶ `prot` — `PROT_READ`, `PROT_WRITE`, `PROT_EXEC` (それらの bit 和)
- ▶ 例えば `PROT_WRITE` が設定されていない領域に書き込みを行うと、そのスレッドに `SIGSEGV` シグナルが配達される
- ▶ シグナルハンドラを設定していなければ、プロセスが終了する (デフォルトのアクション)